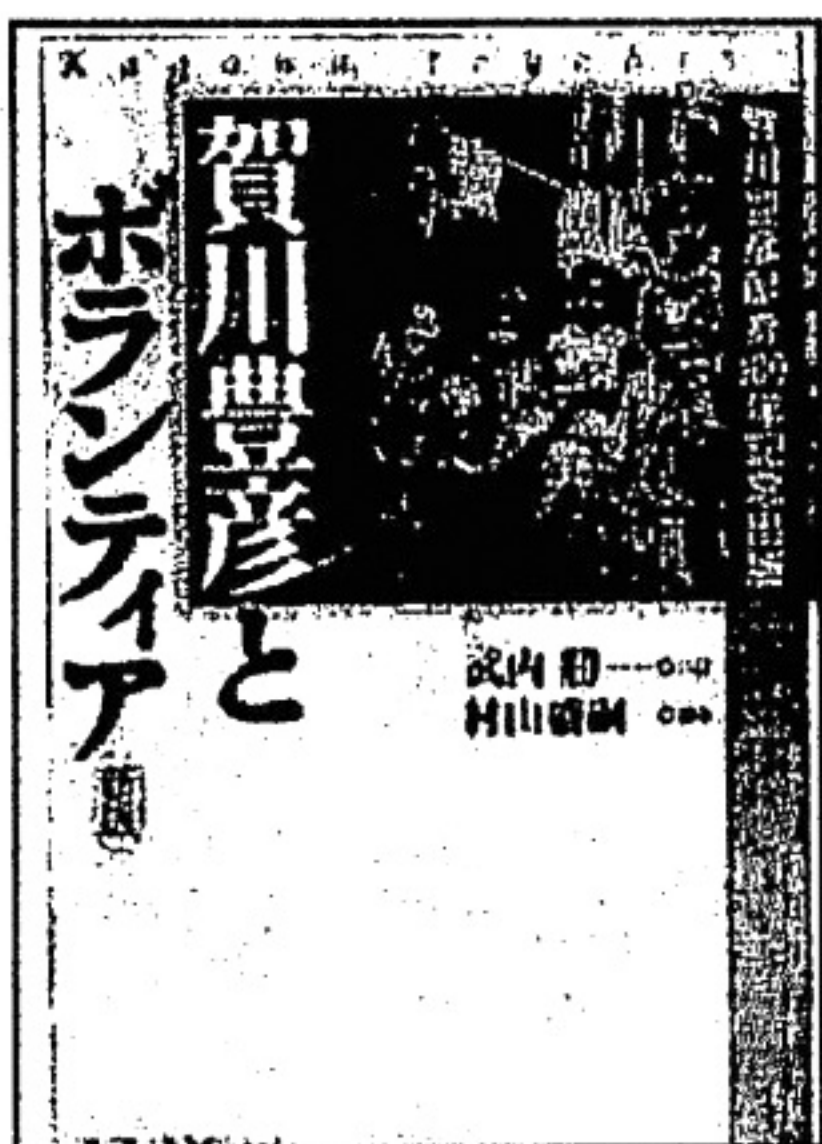


賀川豊彦とボランティア

武内勝・口述、村山盛嗣・編集

各地の本



戦前から戦後にかけてつくった。

て、貧困問題をはじめ、1909（明治42）年

日本のあらゆる社会活動 12月24日、神学校の学生

にかかわり、各分野で指 だった21歳の賀川が、神

導的役割を果たしたのが 戸市真合区（当時）のス

賀川豊彦である。日本で ラムに住まいを移し、社

初の労働組合、農民組合 会活動の第一歩を踏み出

を組織、生活協同組合も してから、今年でちよう

と100年になる。

路傍伝道のかたわら無

料診療所を開設したり救

済事業を起こすなど、こ

の地での活動は、関東大

震災救援のため東京に拠

点を移すまで約14年間続

いた。

その後を引き継いだの

が、本書の口述をした武

内勝だった。「先生は伝

道に、奉仕に、貧乏に、

迫害に、祈りながらよく

泣いておられました」

！。最初の弟子であり、

最大の協力者だった武内

の言葉からは、賀川の緊

顔がりのままに伝わっ

てくる。賀川夫妻の献身

的な日常と、救霊団（現

イエス団）の活動のよう

すが、全編を通して語ら

れ、社会運動家・賀川の

原点となった神戸時代を

知るうえで貴重な記録と

なっている。

神戸新聞総合出版セン

ター発行。四六判、36

0冊。定価1890円

（税込）。問い合わせ

は、同社へ電0778（3

62）7138へ。